

病院経営赤字と高齢者医療

2026 年度の診療報酬改定に向けた議論が大詰めを迎えている。多くのマスメディアでも取り上げられているように、2024 年度はほとんどの病院が大きな赤字を抱えており、精神科を除く病院の損益は平均赤字額 2 億 6,723 万円、利益率 -7.3% であった。厚生労働省は、この背景に物価や人件費の上昇があり、それらが費用面に大きな影響を与えていると解析している。確かに、物価高といえばコンビニのおにぎりも、「おっ、美味しそうだな」と思って手に取って値段をみると 300 円近いものもある。また、2025 年の最低賃金をみると全国平均 1,121 円の中で東京都と神奈川県は共に 100 円程度高額であり、少しでも高いアルバイト料を求めて近隣県から都内に通う学生も増えているという。こんな中で、11 月 28 日のニュース速報で、医療・介護従事者の賃上げなどへの財政支援に 1.3 兆円超の補正予算案が閣議決定されたとの報道を耳にして、正直少しほっとしている病院関係者も多いと思う。

2025 年 4 月から大学病院を離れ、急性期を扱う 300 床の一般病院に勤務することになったが、高齢者医療を含めて一般病院の運営がここまで大変だとは正直いって想像していなかった。神奈川県青葉区は全国的にみても平均寿命が高い特殊な地域柄ではあるが（2020 年の厚生労働省「市町村別生命表」によると男性は全国 2 位、女性も全国 13 位）、月平均 30 件弱の外科手術患者の年齢層もほとんどが 80 歳以上で、90 歳を超える方もいる。さらに入院患者の高齢化の影響もあってか、院内の転倒・転落のインシデント報告も増加傾向にあり、医療安全面のさらなる対応が迫られている。おそらく、このような課題は当院に限ったことではないだろうし、問題となっている 2040 年に向けて今後さらに顕著化するだろう。病院としての生き残りをかけた戦略について、最近話題の人工知能（AI）に質問してみても、抽象的な回答ばかりで具体的方策のヒントすら皆目見当がつかない現状である。

(船橋公彦)

顧問 森岡恭彦 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏 名川弘一
亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史 佐野 武
編集 長谷川 潔 船橋公彦 山下裕玄

臨床雑誌 外科 第 88 巻 第 1 号 (1 月号) 2026 年 1 月 1 日発行 (1107 号)
編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目 42 番 6 号 小 立 健 太
印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目 15 番 5 号 日経印刷株式会社

発行所 ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目 42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番
株式会社 南江堂 (編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する著作権者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所：☎ 113-0033 東京都文京区本郷 5 丁目 24 番 6 号本郷大原ビル 6 階 文京メディカル TEL 03-3817-8036